

## 緩和ケア病棟のためのクラウドファンディング (寄附募集)目標額達成の御礼

当院では、2020（令和2）年度中に緩和ケア病棟を開設するにあたり、自己資金で調達しなければならないベッド、医療機械、備品などの購入費用、看護師・スタッフ育成のための費用の一部について、9月17日から12月13日まで、クラウドファンディングという形で寄附金募集をさせていただきました。この間に、424の個人・団体の方々から、24,652千円のご支援（寄附）をいただきましたことをご報告いたしますとともに、皆さまへ感謝申し上げます。

ご支援いただきました方々のなかには、当院へ通院中の患者さま、以前に診療させていただいた患者さま・ご家族さま、上小地区の医療を担ってくださっている診療所や薬局さま、地元の経済活動を支えてくださっている事業所さまなどのお名前を拝見いたしました。本来であればお一人おひとりへご挨拶に伺わなければなりません、この紙面をお借りしまして、皆さまへ御礼を申し上げます。ご支援をいただきました方々のお名前は、規定に沿って別紙に掲載させていただきました。

クラウドファンディングを実施したことにより、テレビ・新聞の報道でも取り上げていただき、上小地域の皆さまへ緩和ケアと緩和ケア病棟のことを知っていただくことができました。また、ご寄附に添えられたメッセージでは、私たちへ多くの期待を寄せていただきました。私たちは皆さまからいただきました期待を、信頼へつなげていく責任があります。緩和ケア病棟を開設した後に、皆さまから「信州上田医療センターへ寄附をして良かった」と言っていただけのように、これから半年あまり、準備に取り組んでまいります。

緩和ケア病棟開設クラウドファンディング・プロジェクトメンバー

吉澤 要、藤森 実、酒井圭一、村上真基

渡部祐子、牧内美和、高橋信章、宮下竜太郎



特集

# 第5回上田地域がん市民公開講座の開催について

経営企画室長 宮下 竜太郎

当院では、上田市との共催で、第5回上田地域がん市民公開講座を令和元年11月23日に上田文化会館で開催いたしました。がん市民公開講座は平成27年から毎年開催しておりますが、令和2年度に当院で緩和ケア病棟の開設を予定していることもあり、今回のテーマとしては「緩和ケア医療について」と題して、地域の皆様に緩和ケア医療に関する認識を深めていただくことといたしました。

開催当日、最初に当院の緩和ケア専門医である村上真基緩和ケア内科部長による講演として、「緩和ケアはどんなことをするの?」という演題で、緩和ケアの定義や背景、「ホスピス」との違い、当院で提供する緩和ケアの内容、そして新たに開設する当院の緩和ケア病棟の紹介などについてお話がありました。「緩和ケア」という言葉はなじみが薄い方もおられるかと思いますが、端的に言えば、「病気に伴う心と体の“つらさ”を和らげること」であるとのことでした。

続いて、長野市にあります医療法人愛和会愛和病院の副院長であられる平方真先生から、「緩和ケア病棟はこんなところ」という演題でお話をいただきました。愛和病院は緩和ケアを中心とした病院で、病棟も全て緩和ケア病棟となっており、平方先生は長野県内の先駆的存在として、緩和ケア医療に長年取り組んでおられるとのことでした。平方先生からは、緩和ケア病棟で緩和ケアを提供することの利点や意義、それぞれの患者さんの人生やお気持ちとの関わり方、緩和ケア病棟での具体的な取組の様子などをわかりやすくご説明いただきました。

会場では、寒さが増す秋空の下でご来場いただきました、約170名の地域住民の皆様が最後まで熱心に聞き入っていただき、心より感謝申し上げます。演題終了後の質疑応答でもいくつかご質問をいただくなど、この地域での緩和ケアに対する関心が高まっている印象を受け、現在は緩和ケア病棟がひとつもない東信地域において、当院で今年夏頃に予定しております緩和ケア病棟開設に対する皆様からの強い期待も感じられました。新病棟開設に伴い、よりよい緩和ケア医療を提供できるよう、病院一丸となって取り組んでいければと思います。



# 薬剤師の一口メモ

## インフルエンザと漢方薬

薬剤部 山田 豪樹

新年あけましておめでとうございます。

毎年インフルエンザが流行するこの時期ですが、今号をお読みの皆様は罹っていませんか。

今回は、インフルエンザと漢方薬についてのお話です。

上小地域は寒さが厳しいですが山沿いを除き雪があまり降らず、乾燥しており盆地のため風もあまり吹かないため、毎年のようにインフルエンザが流行しており例年警戒情報が発令される地域です。

インフルエンザの治療薬には、飲み薬のタミフルやゾフルーザ、吸入薬のイナビル®やリレンザ、注射薬のラピアクタ®がありますが、実は麻黄湯という漢方薬をインフルエンザの治療初期に用いる場合があります。

麻黄湯の主成分の1つの麻黄にはエフェドリンという成分が含まれ、薬効として発汗促進、咳止め、去痰の効果があり市販の風邪薬にも含まれています。そのため風邪薬と麻黄湯を併用して飲んだ場合エフェドリンが過剰摂取となり、エフェドリンの副作用（血圧上昇、頭痛、不眠等）が現れることがあるため、注意が必要です。

また風邪の諸症状（鼻汁、咳等）や花粉症等のアレルギー症状に用いる小青竜湯という漢方薬との併用にも注意が必要で、多くの漢方薬に含まれる甘草という成分が小青竜湯や麻黄湯にも含まれており、両方を併用した場合過剰摂取する可能性が高くなり、むくみ（浮腫）や高血圧、偽アルドステロン症を発症する事があります。

その他、比較的有名な漢方薬である葛根湯には、上記2つの成分の麻黄と甘草が共に含まれており風邪のひき始め等で服用した場合も併用に注意が必要です。

インフルエンザは小児や高齢者等の体力が無い方が罹った場合重症化する事もある疾患ですが、ワクチン接種で重症化する可能性を下げられますし、何より感染予防には手洗い・うがいを行う事が重要です。

しかしインフルエンザが流行する要因としては、家族内での感染もあります。

家族内で1人でも手洗い・うがいを行わないとその分感染するリスクが高まりますので、ぜひ家族全体で感染予防を行い、今冬はインフルエンザに感染しないようにしましょう。

